

靖先生(🇯🇵&🇦🇺&🇮🇳) 第3回



インドのとある獣医学会

最終回、第3回目の配信です！

今回はインドでの生活や、海外を志す学生へのメッセージを伺っていきます。

獣TIMES(以下獣)：インドに行かれてから文化の違いも相当大きいと存じます。衝撃の大きかったエピソードがありましたら、お教えてください。

先生：私もまだニワカなので詳しく語れませんが、めっちゃいろいろあります(笑)

- 「カースト制度」の存在を実感した時は驚きました。現在ではカースト差別はもちろん相手のカーストを聞くことなども禁止されているらしいですが…**インドでは履歴書や公文書で父親の名前を尋ねられるので、「父親の苗字(と職業)と出身地域を見れば、カーストがわかる」**そうです。だから、実際にカーストを聞かなくても採用時に選別/差別することもやろうと思えば可能なのですよね…。
- カーストに関連して、**子供の結婚相手を親が見つけてくるのがいまだにけっこう普通**というのにも驚きました。
- 宗教的に「牛が神聖な動物で殺してはいけない」というのは知っていましたが、**首都圏では牛肉の所持自体が罪に問われることや、水牛は悪魔の使いとされており水牛の肉なら食べることもできる、**というのには知らなかったので驚きました。
- 道路に**車線はあるんですが、基本的にみんな無視**です(笑)
3車線のところを4列走行するとか当たり前、車線変更や曲がる時もインディケーター出さないし、人も牛も自由に道路を横切るし。
「なんで事故らないの？」って不思議な場面が多々ありました(実際は、結構な年間の交通事故死者数らしいですが)。
- **全体的に、「混沌」を前提とした「秩序」ができていて面白い**ですね(笑)



高層ビルの横の空き地でゴミを漁る牛達

獣：行ってみたい国の1つです。

普段はヒンディー語と英語、どちらを使われていますか？また、ヒンディー語はどのように学ばれたのでしょうか？

先生：実は、ヒンディー語は全然わかりません(笑)

覚えているのは「ナマステ(こんにちは)」「シュックリヤー(ありがとう)」「ピンディ(オクラ)」くらいかな。ですので、**基本的に英語のみでコミュニケーションしています。**

英語を使えるかどうかは教育レベルとか社会的ステータスとかと比例しているようで、獣医師や接客業、動物病院を受診するような飼主さんは英語で意思疎通ができることが多いけど、一般の人は英語話さない率高いです。獣医補佐(保定とか手伝ってくれる人)も喋れる人は少なくて、少し困ります…。

獣：オーストラリア、日本、インドを国全体で比較した際に、この面ではこの国が素敵だなあという点があったら伺いたいです。

先生：あくまで個人的な見解ですが…

■オーストラリア

- **Easy going** で、**良い意味で大雑把**な所とかは、自分も雑な方なのでラクだった(笑)。
- 多民族多文化国家だからか、多様性を受け入れるところ、相手の一側面(体型、容姿、肌の色、国籍、etc)を見て先入観で判断しないところも、自分の価値観とマッチしたので居心地良がよかった。
- 多様な野生動物が身近&野生動物保護ボランティアが盛んで、ボランティア経験もいろいろできる。
- ビーチがきれい、アウトドア系レクリエーションが充実、BBQ おいしい。

●日本

- 日本を出てみて&海外から帰ってきてみて、同じ文化・言語を共有しているというのは素晴らしいことだと改めて感じた。中に居るうちはあまりわからないものだけど…。
- 日本の食の安全性、安さ、美味しさは世界一(生卵が普通に食べられるのもおそらく日本だけ)。
- 街の清潔感、時間の正確さ(公共交通機関 etc)、生活・医療インフラなど、実は凄いことだらけ。
- 日本の神社仏閣、日本の四季と季節のイベントが自分の体には一番あっていて感じる。

■インド

- 街中に犬、牛、山羊、豚、猿、いろんな動物がウロウロしている(良い点なのかな(笑))。
- 物価・人件費が安く、タクシーとかハウスキーパーとかも安い(質は置いといて)。
- 服や布のデザイン性が高い。街中で普通にサリー姿の人たちを見かける。
- **インドの文化や常識が日本とまっっっつたく違うので、彼らと接するだけでも常識で凝り固まった意識に改革が起こるのがおもしろい。**

獣：もちろん人それぞれなのは前提とした上で、各国の動物病院、獣医師、獣医学生を比較した際に、この部分が素敵だなあという点があったら伺いたいです。

先生：

■オーストラリア

- 一次と二次診療の棲み分けが比較的進んでおり、それぞれの医療の質を上げると言う点では望ましい形だと思う。また、ちゃんと長期休暇を取れるのも(当たり前かもだけど)よい点だと感じる。
- ペットにしても保護動物にしても、感情論ではなく客観的に中長期的展望を判断し、必要な場合には“ちゃんと”安楽死を実施するのも大事なことだと思う。

●日本

- **研究領域や二次診療はもちろん、一般診療の先生方の真面目さ・ストイックさはピカイチ。**
- 一次診療のレベルでやっている内容は世界的にみてもかなり高いと思う(特にエコー)。

■インド

- 小動物臨床はまだ発展途上と言えらると思うが、英語が使えるので欧米の最新情報、専門医のセミナーなどに直でアクセスできるのは強み。獣医師、獣医学生のハングリー精神が強く、積極的に学ぼうとする姿勢と合わせて、今後急速に進歩するのは間違いないと思う。



獣：海外へ編入や留学したい学生へアドバイスがあればお願い致します。

先生：まず、アドバイスって対象の人の特性やその時に置かれている状況などによって変わると思うので、「万人/あらゆるタイミングに当てはまる普遍的なアドバイス」って難しいと思っています。ですので、私のコメントを全て鵜呑みにせず、「**自分に合っている**」と思うアドバイスだけを丁寧に見極めて拾う、という前提で読み進めてください。

①あなたは「自分の本当の心、本当にやりたいこと」を理解していますか？

もしそれに自信がないようであれば、まずはそれを正確に把握することをおすすめします。というのも、人間はそれぞれ能力や得意分野に違いがあり、それを最大限に研鑽・活用することが本人の幸福と社会的貢献を最大化する、と私は信じています。いわゆる適材適所ってやつです。

例えば、「獣医になりたい」「海外へ行きたい」というのは、本当にあなたが心からやりたいと思うことですか？もしも本当は他にやりたいことがあるのに、何らかの外力が働いて「獣医」「海外」というキーワードに縛られているのであれば、方針を変えて、自分の時間と労力と情熱を100%注げられる本当にやりたいことをやるべきだと思います。

現代の日本だと、勉学至上主義、親や親戚からの期待、周囲からの同調圧力、「将来の安定した収入（そんなもの今の時代では存在しないのに）」が優れているという“常識”などに晒され続け、外部から植え付けられた価値観を「自分の意見」と信じている人を見かけることも多々あります。

あなたの今持っている「夢」は、本当にあなたが自分の感性と意識の元でやりたいと思っていることですか？まずはこれを見極めることがスタートです。

これを見極めるヒントとして、自分はいつも以下のようなことを自問自答します。

- 寝ることを忘れるほど、それに熱中できるか？
- 「親の気持ち」「親戚・友達目」「世間体」をぜんぶ取っ払って考えた時（周りの目を気にしない幼稚園児や小学生の思考に戻ったとして）、同じ選択をするか？
- 10年後、1年後、1ヶ月後、1週間後、1日後に生きている保証などどこにも無いわけだけど、唐突に死ぬタイミングが来た時に今の生き方で自信を持って満足して死ぬか？
- 自分が億万長者で金銭の心配をしなくていい状況だった時、それでもやりたいと思うことか？

②あなたが本当にやりたいことを見つけた時、手段を選んでいる余裕はありますか？

人間の欲求には低次のもの（「生命維持」や「安全確保」）から高次のものまでありますが、より低次の欲求を満たした上で「本当にやりたいこと」を突き詰めていくと、最終的な人生の目標は利己的なものではなく、直接的または間接的に社会的なプラスになるものが多いと思います。

それを**実現するために、形式的で意味のない遠慮をしたり、周囲が水戸黄門の印籠のように突きつけてくる「常識」や「普通」に無理に付き合ったりする余裕はあるでしょうか？**（もちろん、人として必要な配慮をしない傍若無人な振る舞いを良しとしているのではありません。）

それらの「常識」や「普通」にリソース（時間、労力、お金など）を費やす価値が本当にあるのか？もし必要ないと判断したなら、周りとは違う道を進むと決めたなら、あらゆる手をつくし、考え抜き、戦略を持って努力をし続け、自分の目標の実現可能性を最大限に高めるべきです。

最初は奇策なんてまず思いつかないし、自分がやっているのが名策か愚策かなんてわからないし、凡策が正解ということもあるでしょう。経験がないうちはとにかく数を打つ、まず行動してみるしかないです。**そして、若い時なら多少の失敗も大目に見てもらえます。今やり始めない理由はないと思うのです。**

海外に行きたい、海外で獣医学を学びたい、というのが本当に自分のやりたいことだった場合、それを**実現するためにあなたは何をどれだけやっているのでしょうか？**

10年前と比べてネットが普及している今は、情報を収集するのも、実際に実現している先輩達に連絡を取って話を聞いたり手を借りたりするのも、格段にハードルは下がっています。

ここで、「そこまでのリソース（時間・労力・お金など）を割けない」と感じるようであれば、それは「本当にやりたいこと」ではないのかもしれませんが。

「思いつく人10000人、実行する人100人、継続する人1人」と言いますが、実際、やる人は言われるまでもなくやっています。そして、チャンスがきたら逃さず即、そのチャンスを掴みます。

③「やりたいこと」が、今の時点でいくら探しても見当たらない、ということもあるでしょう。

その場合、自分の本当の心、やりたいことがまだしっかり見えていないとか、まだ「自分が天命としてやりたい」仕事・分野にちゃんと出会っていないということもあります。

そのような状況であれば、まずは肅々と目の前の仕事や課題を丁寧にこなしていくと同時に、SNSや読書、様々な活動をやってみて、**自分の知見を広げる&深めることを勧めます。**

中でも自分が一番勧めたいのは読書ですね。こんなにコスパが良く、明日と言わず今から進められる自己投資はありません。最低で月に10冊は読んで欲しいところです（COVID-19で外出に制限がある今なら、もっと読めるかもですね）。

…長文になってしまってすみません。

あまり「海外」「獣医」というキーワードに対するアドバイスって感じじゃなくなってしまいました…ここに書いたようなことを自分で考えられるようになれば、各自がそれぞれの時・状況に合わせて最善の指針を見つけられると信じております。

その時に必要であれば声をかけてください。私のできる限りのお手伝いをさせていただきます。

獣：ご丁寧にありがとうございます！！読んだ方のモチベーションになると思います。

獣：先生が Slack で主導なさっている、小動物臨床と英語をみんなで学ぶ Study Group についてお伺いしたいです。(こちらの Study Group に興味のある方は先生にご連絡してみてください。)

先生：この Study Group を始めた動機なんですけど、

自分が学生だった時から、獣医療業界に関して悲観的な話を先輩たちから聞かされてきました。「臨床より企業や公務員を考えた方がいい」とかね。

自分が働いている業界を後輩や若手に誇れないって…悲しいなと思っていたんです。

獣医療業界はとても面白く、やりがいにあふれている業界であることは間違いありません。自分が動き回る体力と熱意があるうちは、自分以上に可能性を秘めている若い世代のために、自分ができるサポートをできる範囲でやりたいと思いました。

世界中どこでもいつの時代も若者たちは才能に溢れているのに、今の日本ではその可能性が殺されている場面も多いように感じています。**自分がオーストラリアの大学教育や、海外の専門医の先生方と交流する中で「これはいい」と思ったトレーニング方法や考え方を伝えられる場がどこかにあればいいなあと考えていたので、Study group をやってみることにしました。**

自分の行動の傾向の一つが「思いついたらとにかくやってみる。失敗したらその時はその時。」、また「**デモ版で開始して、状況に合わせて改善し、より良いものにしていく。**」というもので、この Study Group はまさにそんな感じでやっているのでも1ヶ月後には無くなっている可能性も否定できません(笑)。自分自身もまだまだ若輩者ですし、上の先生方から見れば詰めが甘くて危なっかしい部分も多々ありますが、参加しているみんなが5年後10年後に「参加してよかった」と、「後輩たちにも同じように伝えていきたい」と思えるようなグループになったらいいなと思いつつやっております。

獣：最後になりますが、先生が人生を通じて大切にしている考え方やモットーがありましたらお伺いしたいです。

先生：いくつかあるんですが全部いいですか(笑)

- やりたいことやったもん勝ち (* 勇気 100% の歌詞)
- 明日死ぬように生き、永遠に生きるように学べ (* マハトマ・ガンジー)
- あらゆる局面、特に失敗した時、目の前にある安易な選択肢ではなく、隠しルートを見つけて進むことで、飛び抜けた成功が手に入る
- あと、「Golden Life」という歌の歌詞が全体的に自分の人生観に近いです。

獣：お忙しい中、ご丁寧にたくさんの分量をありがとうございました！！

先生：こちらこそ、ありがとうございました。

いろいろ長くなりましたが、最後まで読んでくださった方、ありがとうございます。もしも個人的に連絡を取りたい方がいましたら、Twitter で @Vet_Yass まで DM などで連絡いただければと思います。

これにてシリーズ全3回の終了となります。

海外に興味のある学生さんにとって、きっかけや励ましになったらいなと思います！
ご愛読ありがとうございました！

(文責: 獣 TIMES 高際)

